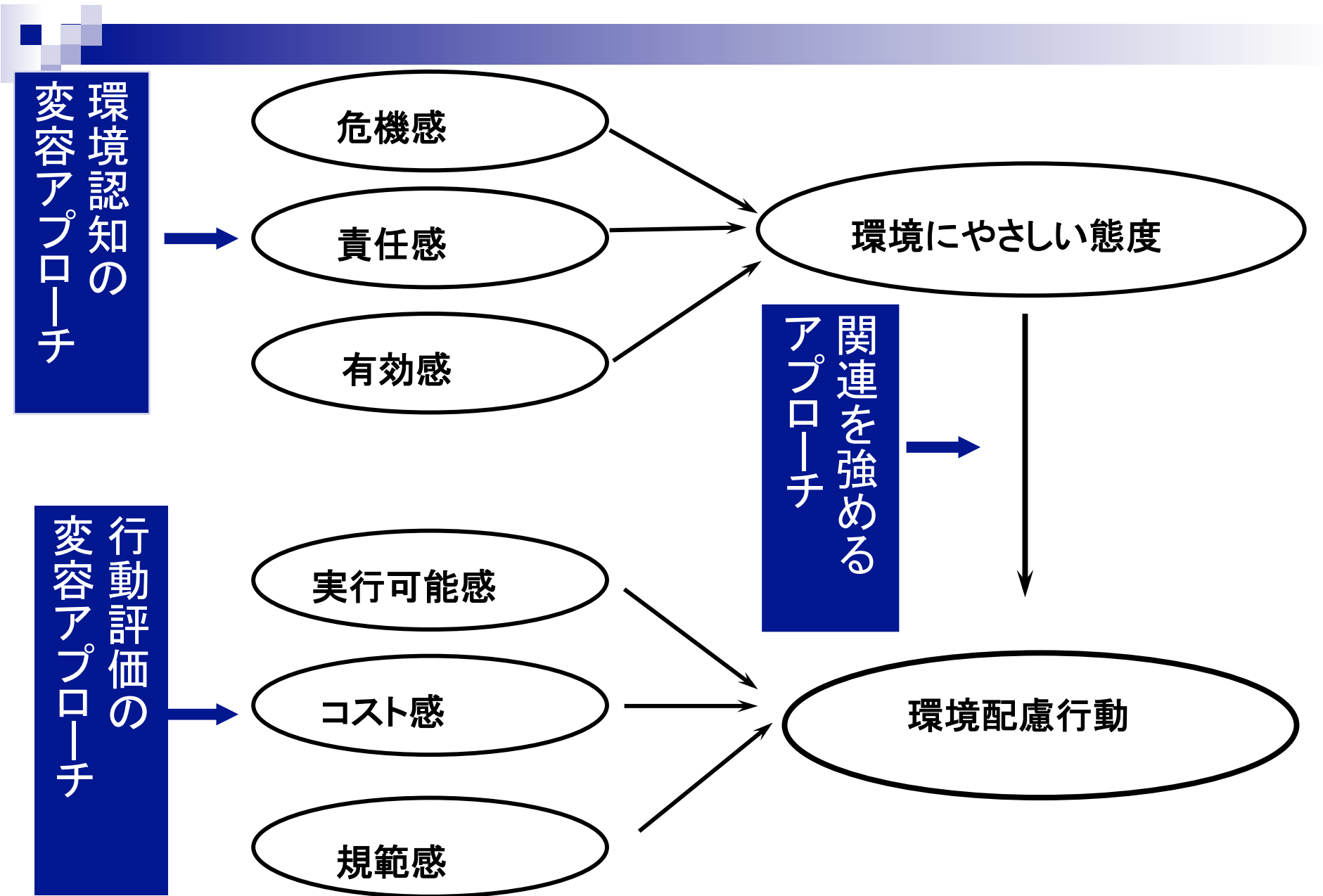


環境配慮行動を普及するための アクション・リサーチ

- 環境行動を促すためのアプローチ
- 環境行動を普及するための社会的レシピ
- 普及に成功した欧米の事例から学ぶ

環境配慮の意識と行動が食い違うのは

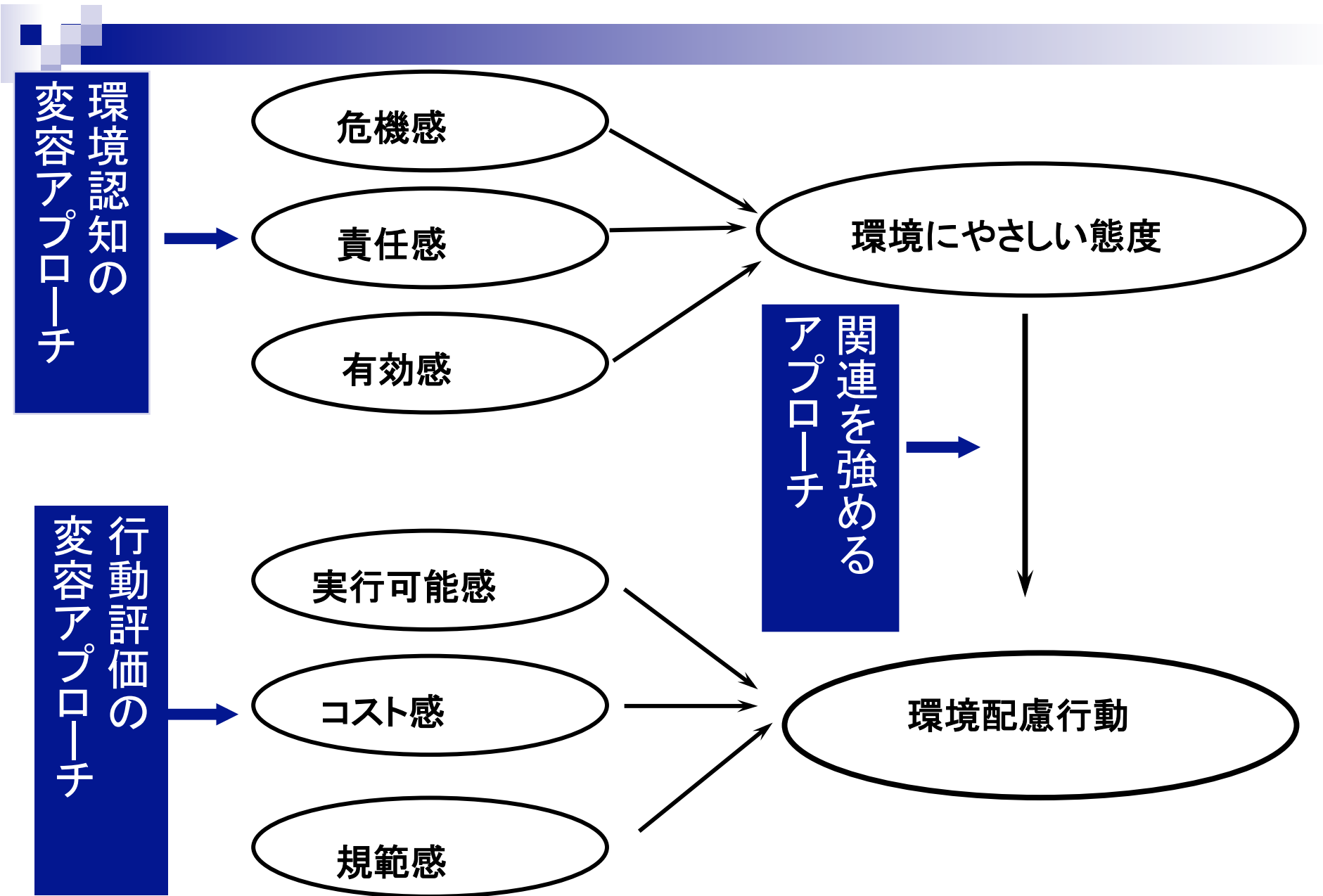
- 環境・社会のためという意識と生活・自分のための行動のジレンマ
(自分一人くらい、自分だけやっても)
- 消費の場面では環境の意識は浮びにくい
(ついつい……しがち、うっかり……した)
- 消費行動をとる時に注目されているのは、
行動のもたらす結果
(快適だから、便利だから、安価だから、
みんなもしてるから)





環境配慮行動を普及するため3つのアプローチ

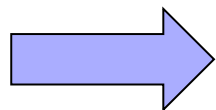
環境行動を促す3つのアプローチ

- **エコライフの意識を育てるアプローチ**
マスメディア・口コミなどで情報を提供するでも、意識は変わっても行動までは変わらない
- **エコ意識と消費行動の絆を強めるアプローチ**
自分の態度や行動を熟慮し反省する機会を提供する
エコ意識に一致した行動が永続きする効果がある
- **環境配慮行動のバリアを取り除くアプローチ**
配慮行動に必要な具体的ノウハウを提供する
努力に応じた報酬をわかりやすくフィードバックする
まわりの人々からの期待や規範を明示する




環境配慮行動を普及するため3つのアプローチ

- 
- 
- 地域で環境配慮行動を普及するために具体的にはどうすればいいのか？
 - 普及するためのレシピはあるだろうか？



これも環境心理学から考えて
みよう



“リサイクルを普及するための 社会的レシピを作る”

という問題を解いてみよう

みんなで考え、みんなで動くので
“社会的”レシピ

成功したリサイクルの事例をもとに考える



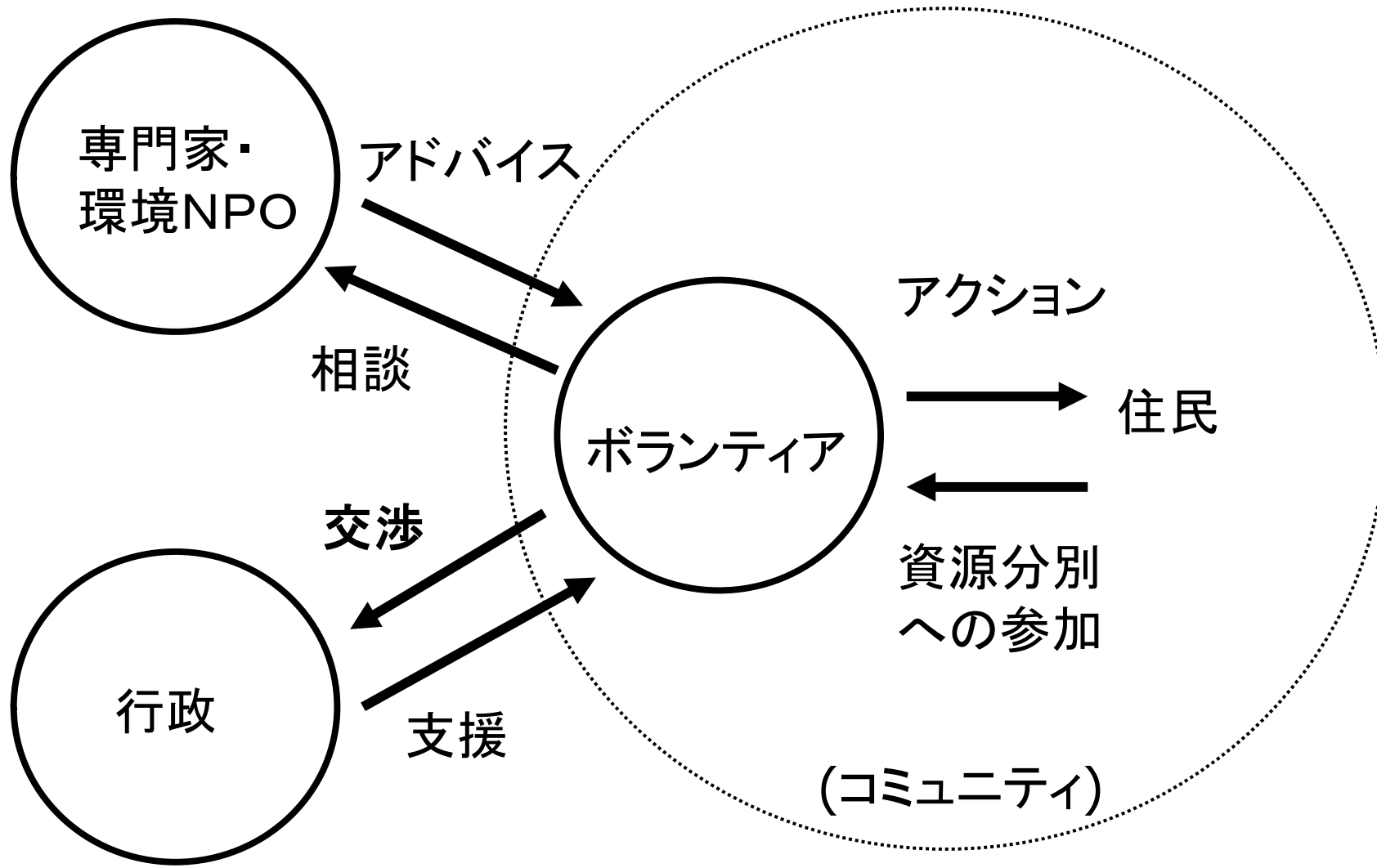
リサイクル・レシピのための材料

- テーマ(地域でのリサイクルシステム作り)
- 役割(環境ボランティアとして)
- 地域(500世帯ほどの新興住宅地)
- 課題(分別の負担, 情報伝達)
- 連携相手(ヒト、モノ、情報を求める)
- 資源(今まで築いてきた友人ネット)
- 目標(約1年間で資源収集のモデル地区へ)



地域リサイクルのレシピの成功例

- 資源リサイクルの立ち上げの社会実験
- NPO・事業者・研究者からのサポート
- 自分たちの地域で普及のためのアクション
- 自分たちのアクションの効果を評価する
- 住民全体へ活動の成果をフィードバック
- 地域での合意形成と行政への働きかけ



リサイクル普及の社会実験に関わる組織・住民との協働

環境ボランティアの普及アクション

友人ネットを
通じ依頼する

回収箱の設置
数を増やす

全世帯への
アンケート調査

実験地域

比較地域



環境ボランティアが働きかけたアクションとその効果

① ごみ減量の意識を高める

会報を配布する

危機感

責任感

有効感

ゴミ減量の態度

② 意識と行動の絆を強める

アンケートで熟慮し答える*

③ リサイクルの評価を変える

回収場所* & 回収期間*の増減

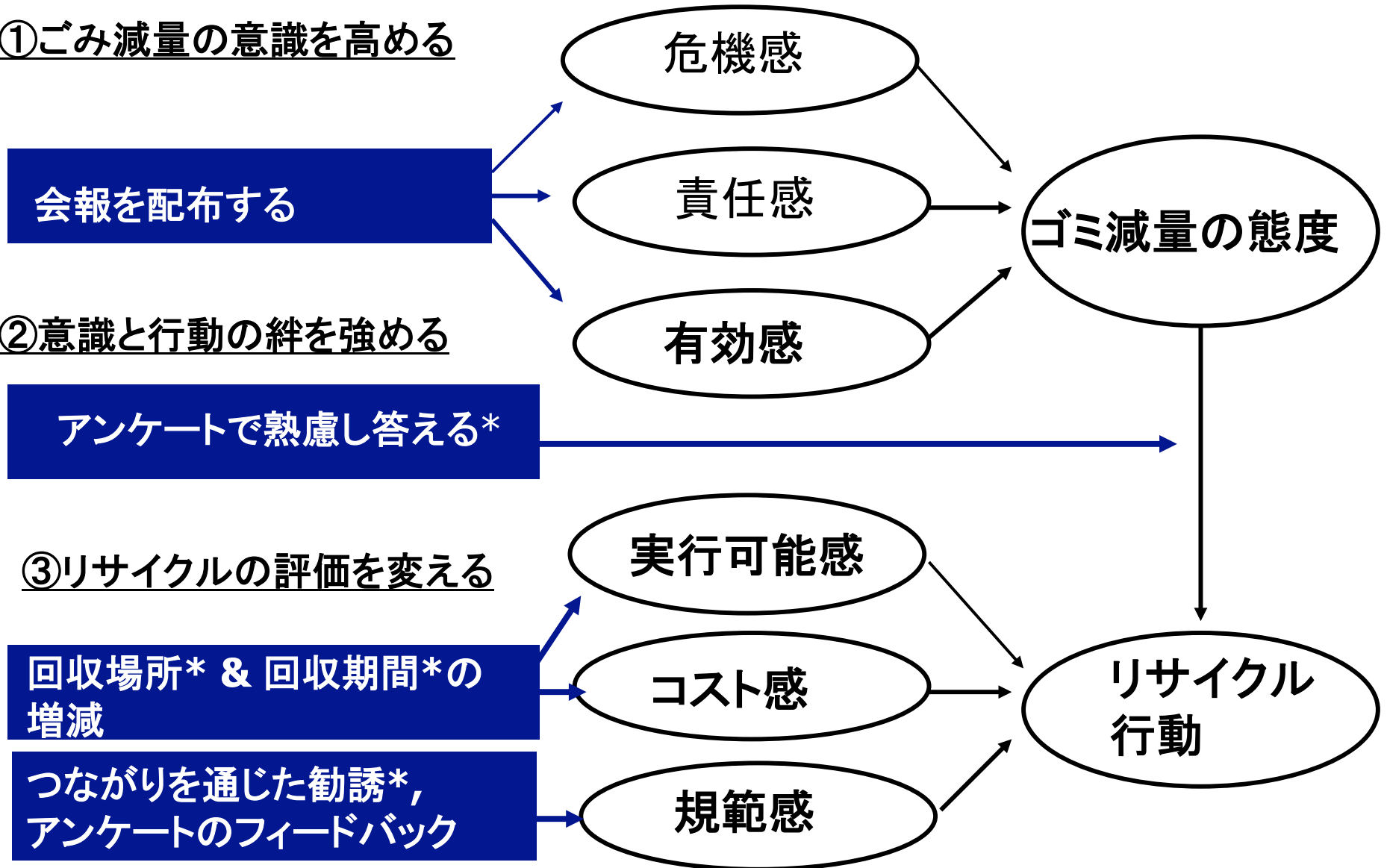
つながりを通じた勧誘*,
アンケートのフィードバック

実行可能感

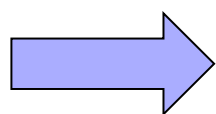
コスト感

規範感


リサイクル
行動



- 
- それでは、省エネを地域に普及するのに成功した事例はないだろうか？



欧米でのベストプラクティスを
探してみよう



地球温暖化防止の普及プログラム

- シアトルの近隣省エネプログラム

Seattle city light neighborhood energy conservation program

- カリフォルニアの家庭チェックプログラム

PG&E effective home audit program

- オンタリオの地域ライフスタイルキャンペーン

Global action plan community lifestyles campaign of household ecoteam

シアトルの近隣省エネプログラム

- 原発立地に替わる省エネ対策
- 全市を対象とした情報提供型キャンペーンの失敗
- 地元密着型のプログラムの開発
 - 家庭での専門家による省エネ無料チェック
 - エネルギー浪費箇所のチェック
 - 具体的箇所での省エネ行動の推奨
 - 各推奨行動の省エネと省経費の計算
- 実施家庭で10%弱の省エネ効果



カリフォルニアの家庭チェックプログラム

- 従来の家庭チェックプログラムの失敗と
2つの新たな改良プログラム
- 具体的で個別的な情報提供の改良
“壁の隙間の合計はバスケットボール大”
“推奨行動をとらない場合の損害額”
- 住民自身によるコミットメントの機会提供
住民自身がメーターの読みとりや計算
参加と関与による省エネの決意の機会
- 実施家庭の60%で推奨行動の実施の報告
同種のプログラムの3倍以上の実施率

オンタリオの地域ライフスタイルキャンペーン

- 友人隣人のエコチーム
4ヶ月に8回のグループミーティング
司会は交代、先輩チームのコーチ
- グローバル・アクション・プラン
1回の集まり毎に、エネルギー、交通、水、
ごみを取り上げ、その具体的な方法を考え、
実行し、報告する
- 研修終了後に新たに2つのエコチーム結成を
地域で働きかける
- 実施グループで、ごみ減量42%、節水25%、
CO₂16%の節減効果



効果的なプログラムとは何か

- 参加者自身によるコミットメントの機会
態度と行動の絆を強めるアプローチ
- TPOを含んだ具体的行動の提示
実行可能感を高めるアプローチ
努力すれば報われるコスト感を高める
- 近隣や友人というネットワークの活用
規範感や連帯感を高めるアプローチ
- 対面的コミュニケーションの活用
3つのアプローチを含んだ総合的パッケージ



環境配慮を普及するための 社会的レシピをつくってみよう

- 温暖化防止のための地域レシピの必要性
- ボランティアによる地域での省エネのはたらきかけを効果的にするために
- 情報交換と協働のネットワークング
- レシピに基づく活動とその成果を評価する
- レシピを進化させることで、
市民とボランティアのエンパワーメントを
高めよう